



CLI ベースのセットアップ プログラムによる スイッチの設定

この付録では、Catalyst 2960-S スタンドアロン スイッチまたはスイッチ スタックを CLI ベースでセットアップする手順について説明します。スイッチの電源を投入する前に、[第 2 章「スイッチの設置」](#)にある安全性に関する警告を確認してください。

Express Setup 経由での CLI のアクセス

未設定スイッチ上の CLI にアクセスすることができます。スイッチを Express Setup モードで設定し、スイッチのイーサネット ポートを PC またはワークステーションのイーサネット ポートに接続します。スイッチのクイック スタート ガイドに記載されている手順に従ってスイッチの電源を投入し、Express Setup を使用できるようにします。

スイッチが Express Setup モードの状態では、IP アドレス `10.0.0.1` を入力して Telnet セッションを開始します。次に、`setup` ユーザ EXEC コマンドを入力し、「[IP 設定](#)」(P.C-6) および「[セットアップ プログラムの完了](#)」(P.C-6) に記載されている情報を入力します。

スイッチの設定情報を入力した後、`write memory` 特権 EXEC コマンドを使用して、フラッシュ メモリに設定を保存します。



(注)

Express Setup モードでは、`write memory` コマンドを入力するまで、スイッチ上で IP アドレス `10.0.0.1` が有効です。`write memory` コマンドを入力すると、Telnet 接続が切断されます。

CLI 使用の詳細については、このリリースに対応したスイッチのコマンド リファレンスを参照してください。

コンソール ポート経由での CLI のアクセス

スイッチの RJ-45 コンソール ポートまたは USB コンソール ポートを PC またはワークステーションに接続し、端末エミュレーション ソフトウェアを通じてスイッチにアクセスすることにより、設定済みスイッチ、または未設定のスイッチ上で CLI にアクセスできます。



(注)

スイッチをスタックしている場合は、スタック内の 1 つのスイッチのコンソール ポートに接続します。任意のメンバ スイッチから、スタック全体の初期設定を行うことができます。

RJ-45 コンソールポートまたは USB コンソールポートの接続

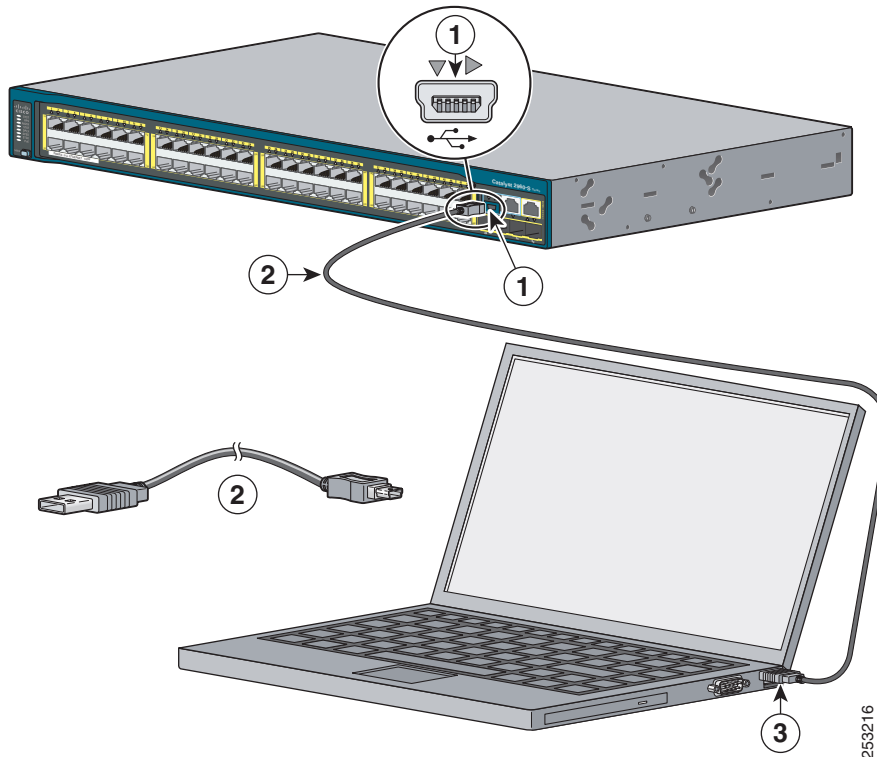
ステップ 1 スイッチの USB コンソールポートを初めて Windows ベースの PC に接続する場合は、次の手順に従って USB ドライバをインストールしてください。図 C-1 を参照してください。

- 「Cisco Microsoft Windows XP USB ドライバのインストール」(P.C-3)
- 「Cisco Microsoft Windows 2000 USB ドライバのインストール」(P.C-4)
- 「Cisco Microsoft Windows Vista USB ドライバのインストール」(P.C-4)



(注) スイッチの USB コンソールポートを使用しない場合は、RJ-45/DB-9 アダプタケーブルを使用して、スイッチの RJ-45 コンソールポートを PC または端末のポートに接続します。

図 C-1 USB コンソールケーブルを Catalyst 2960-S スイッチに接続



1	USB コンソールポート (5 ピン ミニタイプ B)
2	USB タイプ A から 5 ピン ミニタイプ B へのケーブル
3	ラップトップコンピュータ上の USB タイプ A 接続

ステップ 2 PC または端末上で端末エミュレーションソフトウェアを起動します。このプログラム（その多くは、HyperTerminal や ProcommPlus などの PC アプリケーション）は、使用可能な PC または端末とスイッチの間の通信を確立します。

- ステップ 3** コンソール ポートのデフォルト特性に合わせて、PC または端末のボーレートおよびキャラクタ フォーマットを次のように設定します。
- 9600 ボー
 - 8 データ ビット
 - 1 ストップ ビット
 - パリティなし
 - なし (フロー制御)
- ステップ 4** スイッチのクイック スタート ガイドを参照して、スイッチの電源を入れます。
- ステップ 5** PC または端末にブートローダ シーケンスが表示されます。Enter を押してセットアップ プロンプトを表示します。「[セットアップ プログラムの完了](#)」(P.C-6) の手順を実行します。
-

Cisco Microsoft Windows USB デバイス ドライバのインストール

Microsoft Windows ベースの PC をスイッチの USB コンソール ポートに初めて接続するときには、USB デバイス ドライバをインストールする必要があります。

Cisco Microsoft Windows XP USB ドライバのインストール

- ステップ 1** Cisco.com の Web サイトからファイル Cisco_usbconsole_driver.zip を入手し、解凍します。



(注) スイッチ ソフトウェアをダウンロードした Cisco.com サイトから、ドライバ ファイルをダウンロードできます。

- ステップ 2** 32 ビットの Windows XP を使用している場合は、Windows_32 フォルダで setup.exe ファイルをダブルクリックします。64 ビットの Windows XP を使用している場合は、Windows_64 フォルダで setup(x64).exe ファイルをダブルクリックします。
- ステップ 3** Cisco Virtual Com InstallShield Wizard が起動します。
- ステップ 4** [Ready to Install the Program] ウィンドウが表示されます。[Install] をクリックします。
- ステップ 5** [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。
- ステップ 6** USB ケーブルを、PC とスイッチのコンソール ポートに接続します。USB コンソール ポートの LED がグリーンに変わり (表 1-10 を参照)、数秒以内に一連の [Found New Hardware Wizard] ウィンドウが表示されます。指示に従って、ドライバのインストールを完了します。
- これで USB コンソールを使用する準備が整いました。
-

Cisco Microsoft Windows 2000 USB ドライバのインストール

ステップ 1 Cisco.com の Web サイトからファイル Cisco_usbconsole_driver.zip を入手し、解凍します。



(注) スイッチ ソフトウェアをダウンロードした Cisco.com サイトから、ドライバファイルをダウンロードできます。

ステップ 2 ファイル setup.exe をダブルクリックします。

ステップ 3 Cisco Virtual Com InstallShield Wizard が起動します。[Next] をクリックします。

ステップ 4 [Ready to Install the Program] ウィンドウが表示されます。[Install] をクリックします。

ステップ 5 [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。

ステップ 6 USB ケーブルを、PC とスイッチのコンソール ポートに接続します。USB コンソール ポートの LED がグリーンに変わり (表 1-10 を参照)、数秒以内に一連の [Found New Hardware Wizard] ウィンドウが表示されます。指示に従って、ドライバのインストールを完了します。

これで USB コンソールを使用する準備が整いました。

Cisco Microsoft Windows Vista USB ドライバのインストール

ステップ 1 Cisco.com の Web サイトからファイル Cisco_usbconsole_driver.zip を入手し、解凍します。



(注) スイッチ ソフトウェアをダウンロードした Cisco.com サイトから、ドライバファイルをダウンロードできます。

ステップ 2 32 ビットの Windows Vista を使用している場合は、Windows_32 フォルダで setup.exe ファイルをダブルクリックします。64 ビットの Windows Vista を使用している場合は、Windows_64 フォルダで setup(x64).exe ファイルをダブルクリックします。

ステップ 3 Cisco Virtual Com InstallShield Wizard が起動します。[Next] をクリックします。

ステップ 4 [Ready to Install the Program] ウィンドウが表示されます。[Install] をクリックします。



(注) User Account Control の警告が表示されたら、[Allow - I trust this program...] をクリックして進みます。

ステップ 5 [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。

ステップ 6 USB ケーブルを、PC とスイッチのコンソール ポートに接続します。USB コンソール ポートの LED がグリーンに変わり (表 1-10 を参照)、数秒以内に一連の [Found New Hardware Wizard] ウィンドウが表示されます。指示に従って、ドライバのインストールを完了します。

これで USB コンソールを使用する準備が整いました。

Cisco Microsoft Windows USB ドライバのアンインストール

Cisco Microsoft Windows XP および 2000 USB ドライバのアンインストール

ドライバは、Windows の [Add or Remove Programs] ユーティリティまたは setup.exe プログラムを使用して削除できます。

Add or Remove Programs ユーティリティの使用



(注) ドライバをアンインストールする前に、スイッチとコンソール端末を切り離します。

- ステップ 1** [Start] > [Control Panel] > [Add or Remove Programs] の順にクリックします。
- ステップ 2** [Cisco Virtual Com] までスクロールして [Remove] をクリックします。
- ステップ 3** [Program Maintenance] ウィンドウが表示されます。[Remove] オプション ボタンを選択します。[Next] をクリックします。

Setup.exe プログラムの使用



(注) ドライバをアンインストールする前に、スイッチとコンソール端末を切り離します。

- ステップ 1** 32 ビット Windows の場合は setup.exe を、64 ビット Windows の場合は setup(x64).exe を実行します。[Next] をクリックします。
- ステップ 2** Cisco Virtual Com の InstallShield Wizard が表示されます。[Next] をクリックします。
- ステップ 3** [Program Maintenance] ウィンドウが表示されます。[Remove] オプション ボタンを選択します。[Next] をクリックします。
- ステップ 4** [Remove the Program] ウィンドウが表示されたら、[Remove] をクリックします。
- ステップ 5** [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。

Cisco Microsoft Windows Vista USB ドライバのアンインストール



(注) ドライバをアンインストールする前に、スイッチとコンソール端末を切り離します。

- ステップ 1** Windows 32 ビットの場合は setup.exe、Windows 64 ビットの場合は setup(x64).exe を実行します。[Next] をクリックします。
- ステップ 2** Cisco Virtual Com の InstallShield Wizard が表示されます。[Next] をクリックします。
- ステップ 3** [Program Maintenance] ウィンドウが表示されます。[Remove] オプション ボタンを選択します。[Next] をクリックします。

- ステップ 4** [Remove the Program] ウィンドウが表示されたら、[Remove] をクリックします。
- ステップ 5** User Account Control の警告が表示されたら、[Allow - I trust this program...] をクリックして進みます。
- ステップ 6** [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。

初期設定情報の入力

スイッチを設定するには、セットアッププログラムを完了する必要があります。セットアッププログラムは、スイッチの電源がオンになると自動的に実行されます。スイッチがローカル ルータやインターネットと通信するのに必要な IP アドレスやその他の設定情報を割り当てる必要があります。これらの情報は、スイッチの設定や管理にデバイス マネージャまたは Cisco Network Assistant を使用する場合にも必要です。

IP 設定

セットアッププログラムを起動する前に、ネットワーク管理者から次の情報を入手しておきます。

- スwitchの IP アドレス
- サブネット マスク (IP ネットマスク)
- デフォルト ゲートウェイ (ルータ)
- イネーブル シークレット パスワード
- イネーブル パスワード
- Telnet パスワード

セットアッププログラムの完了

スイッチをスタックしていて、スタック内の各スイッチに複数のコンソールが接続してある場合は、最初に Enter を押したコンソールに初期設定ダイアログが表示されます。

- ステップ 1** 最初の 2 つのプロンプトで **Yes** を入力します。

```
Would you like to enter the initial configuration dialog? [yes/no]: yes
```

```
At any point you may enter a question mark '?' for help.
Use ctrl-c to abort configuration dialog at any prompt.
Default settings are in square brackets '[]'.
```

```
Basic management setup configures only enough connectivity
for management of the system, extended setup will ask you
to configure each interface on the system.
```

```
Would you like to enter basic management setup? [yes/no]: yes
```

- ステップ 2** スwitchのホスト名を入力し、Return を押します。

ホスト名は、コマンド スwitch では 28 文字以内、メンバ スwitch では 31 文字以内に制限されています。どのスイッチのホスト名でも、最後の文字には *-n* (n は数字) を使用しないでください。

```
Enter host name [Switch]: host_name
```

- ステップ 3** イネーブル シークレット パスワードを入力し、**Return** を押します。
- このパスワードは 1 ～ 25 文字の英数字で指定できます。先頭の文字を数字にしてもかまいません。大文字と小文字が区別されます。スペースも使えますが、先頭のスペースは無視されます。シークレットパスワードは暗号化され、イネーブル パスワードはプレーン テキストです。
- ```
Enter enable secret: secret_password
```
- ステップ 4** イネーブル パスワードを入力し、**Return** を押します。
- ```
Enter enable password: enable_password
```
- ステップ 5** 仮想端末 (Telnet) パスワードを入力し、**Return** を押します。
- このパスワードは 1 ～ 25 文字の英数字で指定できます。大文字と小文字が区別されます。スペースも使えますが、先頭のスペースは無視されます。
- ```
Enter virtual terminal password: terminal-password
```
- ステップ 6** (任意) プロンプトに従って、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) を設定します。後から、CLI、デバイス マネージャ、または Network Assistant アプリケーションを使用して SNMP を設定することもできます。SNMP を後で設定する場合は、**no** を入力します。
- ```
Configure SNMP Network Management? [no]: no
```
- ステップ 7** 管理ネットワークに接続するインターフェイスの名前 (物理インターフェイスまたは VLAN 名) を入力して、**Return** を押します。このリリースでは、インターフェイス名には必ず **vlan1** を使用してください。
- ```
Enter interface name used to connect to the
management network from the above interface summary: vlan1
```
- ステップ 8** インターフェイスを設定するために、スイッチの IP アドレスとサブネット マスクを入力し、**Return** を押します。次に示されている IP アドレスとサブネット マスクは単なる例です。
- ```
Configuring interface vlan1:
Configure IP on this interface? [yes]: yes
IP address for this interface: 10.4.120.106
Subnet mask for this interface [255.0.0.0]: 255.0.0.0
```
- ステップ 9** **Y** を入力して、スイッチをクラスタ コマンド スイッチとして設定します。N を入力すると、メンバ スイッチまたはスタンドアロン スイッチとして設定されます。
- N** を入力した場合は、Network Assistant GUI に候補スイッチとして表示されます。後から、CLI、デバイス マネージャ、または Network Assistant アプリケーションを使用して、スイッチをコマンド スイッチとして設定することもできます。後で設定する場合は、**no** と入力します。
- ```
Would you like to enable as a cluster command switch? [yes/no]: no
```
- 以上でスイッチの初期設定が完了しました。以下に、設定の出力例を示します。
- ```
The following configuration command script was created:
hostname switch1
enable secret 5 $1$U1q8$D1A/OiaEb190WcBPd9c0n1
enable password enable_password
line vty 0 15
password terminal-password
no snmp-server
!
no ip routing

!
interface Vlan1
no shutdown
ip address 10.4.120.106 255.0.0.0
```

```
!  
interface GigabitEthernet1/0/1  
!  
interface GigabitEthernet1/0/2  
  
interface GigabitEthernet1/0/3  
!  
...<output abbreviated>  
!  
  
interface GigabitEthernet1/0/23  
!  
end
```

ステップ 10 次の選択肢が表示されます。

[0] Go to the IOS command prompt without saving this config.

[1] Return back to the setup without saving this config.

[2] Save this configuration to nvram and exit.

次回のスイッチのリブート時に使用する場合は、(2) を選択して NVRAM への設定を保存します。

Enter your selection [2]:2

いずれかを選択して **Return** を押します。

これで、スイッチはこのデフォルト設定を実行します。この設定を変更するか、他の管理作業を実行する場合は、「[管理オプション](#)」(P.1-21) を参照してください。